令和４年８月５日

斜里町議会議長　金盛典夫　様

斜里町議会産業厚生常任委員会
委員　須田　修一郎

調査結果報告書

１　用務：産業厚生常任委員会道内所管調査
２　期間：令和４年７月２７日(水)～令和４年７月２９日(金)
３　調査目的と概要等：委員会報告書のとおり
４　旅程：委員会報告書のとおり
５　調査内容

〇標茶町役場
子育て支援医療費還元事業の取り組みと成果

子どもの医療費は、教育費とは違い突発的に発生する予測のつかないものであり、家計の負担も大きなもの。標茶町では子育てする親の負担や不安の緩和を図ることを目的に、平成 27 年 8 月から、中学校以下の子どもに対する医療費等の自己負担分を、町内での買い物などに利用できるお買い物券として還元する事業をスタートさせた。

その後、対象年齢を平成 28 年 4 月からは高校生以下、平成 31 年 4 月からは 22 歳以下の学生とし、保護者が教育に係る最後の大学・専門学生まで拡充を行っている。商品券は 500 円券で町内 103 事業者のうち 9 割程度が扱っている。

したがって域内循環も目的の一つである、町民の声の中に子どもも世代に支援が偏ってはいないかとの必要があるが、そうではなく、なんの不公平さも思ってはいないという。あくまでも子どもの教育を受ける支援と域内の経済の循環が目的である。

医療費が 100%還元されるという子育ての安心感と経済支援の必要性を感じた。また財源は過疎債を充当していて財政にも大きな影響はないという。

〇弟子屈町役場
子育て応援医療費支援事業（フレカ）

0 歳から高校世代まで医療費の自己負担分の全額を、医療費 1 円＝1 ポイントとして交付、500 ポイントごとに 500 円の弟子屈町内の登録店で利用可能な金券を発行している。

課題としては特定疾患患者等で受給者証が交付されている方からの申請は、制度を把握していなければならないなど少し複雑。有効期間（2 年間）を延長でき（0 ポイント交付の場合）周知はしているがポイントを失効した事へのクレームがある。月末の集計が複雑。

学校の医療費給付対象者、自立支援医療受給者、特定疾患受給者等の情報把握が必要。

コロナの検査など、検査分の保険点数の個人負担が発生しない為、医療機関への確認が必要など数々の課題はあるようである。

〇別海町役場

院内保育所設置による効果と子育て支援施策の連携の取り込み

明治 12 年、今から 143 年前に開村した別海町人口は 14400 人で 6000 世帯、牛の数は 10 万頭のまち。

子どもの出産祝金は、第一子で 30000 円、第二子 50000 円、第三子で 100000 円を支給している。

病院内での保育は平成 5 年に開始し平成 24 年に新築している。病院とは少し離れている（同じ敷地内）。利用対象は、看護職員、その他の職員が養育する生後 6 ヶ月から小学校 3 年生までの乳幼児及び児童。利用人数は平成 24 年から令和 3 年までの平均で年間 17.5 人である。また院内の保育所の運営形態は委託となっていて、保育士等の確保に関しては、受託業者が責任をもって行っている。

働きやすい職場環境がスタッフの確保に直結するという事なのである。

斜里町も看護師不足や介護師不足も生じていることから、子どもを預け安心して働ける環境づくりにも考慮する必要があるのではないか。

〇厚岸町役場

食を起点にした観光戦略について

厚岸町のまちづくりに「必要な条件」、核となる魅力を食、味覚、に置き町の保有する特性等を勘案し、「観光づくり」を進めてきた。

町全体の観光的な魅力化は町民生活の向上、誇りづくりに寄与する。またイベントは観光客を吸引しイメージを高め町民とのふれあいを生むというもの。

核となる魅力：食と味覚

ベースとなる魅力：自然と景観

食～食べる、味わう
触～ふれあい、体験
飾～個性景観
医～健康
を基本概念としていた。
厚岸味覚ターミナル、コンキリエでは「牡蠣」など溢れんばかりの海の幸、豊かな大地が生みだす山の幸、厚岸ウィスキーを提供。厚岸プロモーション実行委員会による観光、物産宣伝等、釧路町、浜中町、標茶町との連携を計り広域での観光政策に力を注いでいた。

〇標津町　サーモン科学館
観光施設としての位置づけ、観光と漁業の連携

一部リニューアルされた科学館ではチョウザメに触れる事のできる体験学習を経験できた。水族館は数多くあるが、小さいとはいえサメの口の中に手首まで入れる事ができる施設はあまり聞いた事がない。入館者も喜んでいるに違いない。
この科学館は指定管理で運営されていた。指定管理料は年間 4000 万円で入館料は昨年で 2600 万円程度であった。この施設は観光、教育、研究機関の 3 つの柱で成り立ち指定管理をうけているＮＰＯ法人の運営はきめ細かな営業方法を行っており、平日にもかかわらず来客は来ており、おそらく土、日、祝日は多くの人達でにぎわっているのだろうと想像できる。
休日には、レストランだけを利用する人もいて、まさしく食と観光の連携といえるだろう。斜里町にとっても標津町からウトロに来てくれる人もいると思うが、このような施設があるとしたらもっと幅の広い観光産業に継がる事は考えられると感じた。